

こころ であい そして つながり

心のかけ橋

第27号
2024年3月
発行

はっこう こなん しじん けん かいぎ
発行：湖南省人権まちづくり会議

【事務局】 人権擁護課 〒520-3288 湖南省中央一丁目1番地（湖南省役所東庁舎1階）

TEL：0748-71-2322 FAX：0748-72-3788 Eメール：jinkyo@city.shiga-konan.lg.jp

「変化」する制服・「進化」する制服

ブラック校則……この言葉からどんなことをイメージしますか。学校現場に長く存在する校則という名のルール。子どもたちの人権侵害につながりかねないルールや、校則の名のもとに繰り返される理不尽な指導。この校則を変えようとする取組が全国津々浦々の学校で進められています。

そこで、近年、多くの学校で見直されているもののひとつとして制服が挙げられます。一昔前は、男子は学生服またはブレザーにスラックス、女子はセーラー服またはブレザーにスカートが定番でした。しかも夏服となると下着の色や汗染み、さらに着心地も気になりました。その制服が今、変化・進化しているのです。性別を問わず、ブレザーとスラックスやスカート、さらにセーターとベストやネクタイとリボンなどを自由に組み合わせることができる学校が急増です。これは健康面や機能面、さらに多様性に対応できるといった観点からデザインが考えられています。教師と生徒、さらに保護者がともに協議し、着用する生徒の意見や思いを大切にするとともに、学校の特色やイメージ等を考慮して総合的に判断して決定に至っています。自分らしい制服を選ぶことができる、組み合わせることができる、そんな学校が増えているのです。安心して学校へ行ける一助となっていることでしょう。

子どもたちは、変化・進化していく制服をとおして多様性について考える機会を得ています。大人も身の周りにおけるさまざまな事象について、多様性という観点から見つめ直したり考えたりすることで人権意識のアップデートが可能となります。

最後になりましたが、湖南省人権まちづくり会議として「湖南省人権総合計画」に基づき、各関係機関や団体と連携・協力しながら活動をしてまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

かい ちょう やま もと ひろし
会長 山本 博

湖南省人権まちづくり会議 全体研修を実施しました	2
活動だより	4
市内小中学校児童生徒の人権ポスター・標語の紹介	10

活動だより

湖南省人権まちづくり会議 全体研修を実施しました

「豊かなつながり創造講座」は、人権や人権課題について向き合う市民一人ひとりが、仲間とのつながりをつくり、実践するための講座として、湖南省が年5回程度開催しています。今年度は「お互いを認めあう人権尊重のまちづくり」を大きなテーマとして6回開催し、そのうち2回を湖南省人権まちづくり会議の全体研修として実施しました。

開催日: 2023年8月25日(金曜日)

講師: 富川 拓 さん(聖泉大学 人間学部 准教授)

演題:「ジェンダー平等・男女共同参画を考える」

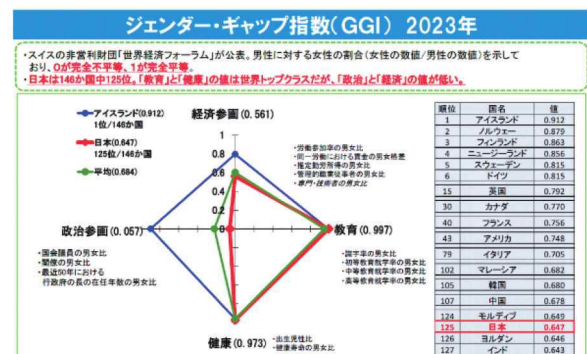
講座の概要

世界経済フォーラムが公表した「ジェンダー・ギャップ指数2023」では、日本は146か国中125位であり、昨年の116位から順位を下げ、主要先進国(G7)のなかで依然として最下位です。法制度上の男女差別はほとんどありませんが、ジェンダー・男女共同参画が実現されているとは言えないのが現状です。特に政治と経済の分野において格差解消が進んでいません。

この講座では、この現状を変えていくために必要なことなどをお話いただきました。

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・ジェンダー平等の考え方や現状について、大変わかりやすくお話しいただき、よくわかりました。



ないかく ふ だんじょきょうどうさんかくきょく
内閣府男女共同参画局ホームページより
(https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html)

活動だより

開催日: 2023年10月5日(木曜日)

講師: 下坂 厚 さん

演題: 「若年性認知症の当事者から見える世界」

講座の概要

この講座では、46歳の時に若年性アルツハイマー型認知症と診断された下坂 厚 さんに来ていただき、若年性認知症の症状や発症に気付いたきっかけ、その時の心境やこれからの夢や目標などについて、対談形式でお話しいただきました。「認知症になったら人生終わり」「認知症になったら何もできなくなる」など認知症に対する世間の偏見がありますが、苦勞しながらも日々工夫されお仕事もされている下坂さんのお話は非常に貴重で胸に響くものがありました。認知症は誰もがなる可能性があります、他人事ではなく、また、「認知症になったら人生終わり」ではありません。超高齢社会（65歳以上の人口の割合が全人口の21%を占めている社会）を生きる私たちが認知症について考える良い機会になりました。

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・ 若年性認知症の方から率直な意見がうかがえてとても良かったです。
- ・ 遠方に住んでいる家族に認知症の症状があり、接し方について参考になりました。
- ・ 病気になっても外に出て人とつながることで元気が出たり進行を遅らせたり、症状が緩和されることがあるとのことでしたが、それはどんな病気であっても共通することだなと思いました。



活動だより

ちようせんひと
朝鮮の人たちとのつながり

じんけんぶん か そうぞう ぶ
人権文化創造部

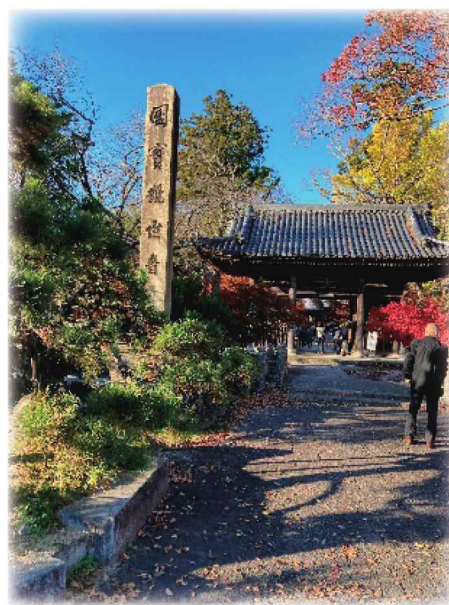
じんけんぶん か そうぞう ぶ
人権文化創造部では、2023年11月22
にち（すいようび）に、し さつけんしゅう かいさい ひがし
アジア交流ハウス 雨森芳洲庵と観音の里・
たかつき どうがん じ かん の ん どう こうげん じ
高月 渡岸寺観音堂（向源寺）（ともに滋賀
けんながは まし ほうもん
県長浜市）を訪問しました。昨年度のウト
へい わ き ねん かん きやう と ふ う じ し
口平和祈念館（京都府宇治市）への訪問に
ひきつづ ねん つづ かいさい
引き続き、2年続けての開催となりました。

あめのもりほうしゅう
雨森芳洲は、え ど じ だい ちゅう ぎ じゆがくしゃ
江戸時代中期の儒学者で、
ちようせん がいこう かつやく じんぶつ あめのもりほう
朝鮮との外交に活躍した人物です。雨森芳
しゅうあん ねん あめのもりほうしゅう しゆつしん ち けんせつ
洲庵は1984年に雨森芳洲の出身地に建設
されたもので、あめのもりほうしゅう しやうがい
雨森芳洲の生涯をたどり、
し そう ぎやうせき けんしやう ひがし
思想や業績を顕彰するとともに、東アジア
との交流と友好を目指す拠点施設です。視
さつけんしゅうとうじつ あめのもりほうしゅう しやうがい し そう ぎやう
察研修当日は、雨森芳洲の生涯や思想・業
せき など
績等についてスタッフの方にお話しいただ

き、あめのもりほうしゅう かんが おし まな
雨森芳洲の考えや教えを学ぶことがで
きました。

かん の ん さと たかつき どうがん じ かん の ん どう こうげん じ
観音の里・高月 渡岸寺観音堂（向源寺）
は、こうそう たいちやう じゅういちめんかん ぜ おん きざ たて
高僧・泰澄が十一面観世音を刻み、建
物の た ひ えいざん でんぎやうだい し さいちやう しち
物を建て、比叡山の伝教大師（最澄）が七
どう がらん こんりやう おお ぶつぞう あん ち れき
堂伽藍を建立し、多くの仏像を安置した歴
し とうじつ こくほうし てい じゅういちめん
史があります。当日は、国宝指定の十一面
かん ぜ おん ぼ さつぞう など せつめい う けいだい
観世音菩薩像等の説明を受けながら境内を
けんがく
見学しました。

こん かい し さつけんしゅう じんけん
今回の視察研修には、人権まちづくり
かい ぎ めい さん か さん か しや
会議から22名が参加しました。参加者は
あめのもりほうしゅう おし じゅういちめんかん ぜ おん ぼ さつぞう
雨森芳洲の教えや十一面観世音菩薩像の
れき し など り かい
歴史等についてよく理解することができ
ました。



活動だより

誰もが自分らしく生きられる社会のために

女性の人権部会



女性の人権部会では、部会活動として、2023年7月12日（水曜日）の第2回出会い・気づき・発見講座「LGBTQ～多様な性を考える～」に参加しました。この講座では、特定非営利活動法人QWQCの内藤れんさんが、ご自身の経験談も交えながら、性の多様性や誰もが自分らしく生きやすい社会をつくるために必要なことなどについて話していただきました。

講演のなかで、言葉の説明や意味について話していただきました。

L（レズビアン）：

女性として女性を好きになる人

G（ゲイ）：

男性として男性を好きになる人

B（バイセクシャル）：

女性を好きになることもあれば男性を好きになることもある人

T（トランスジェンダー）：

出生時に割り当てられた性別と異なる性別を生きる人や生きたい人

Q（クエスチョニングまたはクィア）：

性自認（自分自身が認識している性別のこと。こころの性とも呼ばれる）や性的指向（恋愛・性愛がどういう対象に向かうか。対象が異性に向かう場合を異性愛、同性に向かう場合を同性愛、男女両方に向かう場合を両性愛という）を男性・女性どちらかに決めるのが難しい、決めていない、考え中の人など。

LGBTQの人たちは人口の3%から10%といわれ、日頃から「身近に当事者がいるかもしれない」と意識することが大切だと感じました。



レインボーフラッグは、性的マイノリティの尊厳と社会運動を象徴する旗です。

活動だより

子どもたちの性の発達を考える

子どもの人権部会

子どもの人権部会では、部会活動として、2023年6月22日（木曜日）の第1回出合い・気づき・発見講座「思春期の子どもたちの性の発達と向き合う」に参加しました。この講座では、元一橋大学講師の村瀬 幸浩さんが、「思春期とはどんな時期なのか」や「思春期の性の多様性」について話していただきました。

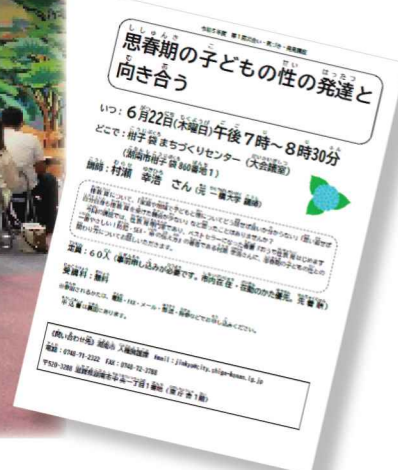
講演のなかで、初経・精通から始まる数年間はからだの機能として妊娠する（させる）力を持つようになり、このことは心のはたらきに影響をもたらすこと、また、そのあらわれ方には個

人差がとても大きいことなど、気付かされることがありました。



参加者からの感想(一部抜粋)

- ・人間の性について、自分自身も偏った考え方をしていたことに気付きました。
- ・男女の違いについて科学的に分かりやすく説明いただき、今までなんとなく理解していたことがよく分かりました。



活動だより

発達障害について学ぶ

障がいのある人の人権部会



障がいのある人の人権部会では、部会活動として、2023年11月24日（金曜日）の第6回豊かなつながり創造講座「発達障害の人と寄り添う～子どもから大人まで～」に参加しました。

この講座では、「あなたの周りに困っている人はいませんか？」というテーマからお話しされました。例えば、あいまいな表現をされるとどうしていいかわからない、机の周りがごちゃごちゃでいつも探し物をしている、細かいところが気になって仕事が進まないなどです。ポイントは本人が困っているというところで、本人が困っていればサポートが必要で、サポートすることによって生活がしやすくなる場合があります。発達障害といってもさまざまな種類（自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害、発達性協調運動

症等）があり、それぞれ人によって特性（人とのコミュニケーションが苦手、読み書きが苦手など）も異なります。誰しも少しは当てはまることかもしれませんが、困り感の大きな人には周りの理解やサポートが大切になってきます。



参加者からの感想（一部抜粋）

- ・発達障害について具体例をたくさん挙げて説明いただけたことで、なんとなく理解していたことがすっきり整理できたと思います。
- ・発達障害の特徴など細かいことは理解できていなかったのですが、今回の講座で知ることができて良かったです。

湖南省では「障害」を「障がい」と表記することとされていますが、本パンフレットで名詞として使用する場合は、「障害」と表記しています（部会名をのぞく）。

活動だより

認知症になっても自分らしく生きるために

こうれいしゃ じんけん ぶ かい
高齢者の人権部会

高齢者の人権部会では、部会活動として、2023年10月5日（木曜日）の第4回豊かなつながり創造講座「若年性認知症の当事者から見える世界」に参加しました。この講座では、46歳の時に若年性アルツハイマー型認知症と診断された下坂厚さんが、若年性認知症について話されました。若年性アルツハイマー型認知症当事者である下坂さんの話は非常に分かりやすく説得力があり、また、苦しみながらも前を向いて生きておられる姿に勇気をいただきました。「認知症になったら終わり」では決してなく、早期発見・治療や周囲のサポート等によって、うまく付き合いながら生きていくことができます。

日本では高齢化の進展とともに、認

知症の人も増加しています。2025年には約650万人～700万人（高齢者の約5人に1人）に増加すると予測されています。（※）

認知症は他人事ではなく、誰もがなる可能性があります。認知症のはじまりは、ちょっとした物忘れなどであることが多く、見逃さないようにすることが大切です。早めに病院を受診し、正しい診断をしてもらい、適切な治療や介護を受けることで、自分らしく生きていける可能性が高まります。本部会では、高齢者をはじめ誰もが生きやすい社会をめざしてこれからも活動してまいります。

（※）厚生労働省、認知症高齢者の将来推計

(<https://www.mhlw.go.jp/content/001061139.pdf>)



活動だより

ともちいきく
共に地域で暮らすため

がいこくじん じんけん ぶ かい
外国人の人権部会

がいこくじん じんけん ぶ かい
外国人の人権部会では、2023年7月4日（火曜日）開催の市主催「第1回豊かなつながり創造講座」に参加しました。この講座では、ブラジル国籍者として初めて司法試験に合格され弁護士として活躍されている照屋エイジさんが、幼少期や学生時代をどのように過ごし、何を感じ考えてこられたかなどをお話しされました。外国人が日本で暮らしていくには、様々な障壁（法制度、言語、偏見等）があります。「外国人だから…」と偏見を持つことは差別につながる恐れがあります。多文化共生社会の実現のためには、見た目や出生地などにとらわれることなく、個人として理解していくことが大切だと感じました。

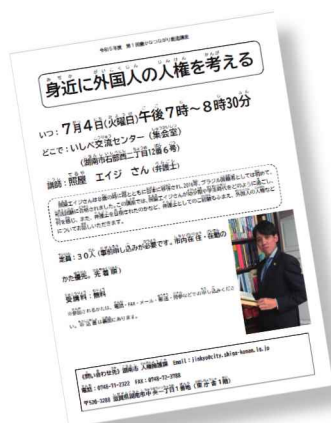
また、2023年12月17日（日曜日）には、市主催「うちなる国際化フォーラム」に参加しました。このフォーラムでは「地域の多文化共生の現状を探る」をテーマに、

ざいだんほうじん じ ち たいこくさい かきょうかい ち いきこくさい か すい
財団法人自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザーの阿部一郎さんのコーディネートで、外国にルーツを持つ方の経験談やブラジル人学校の取組について事例発表や講演を聞くことができました。



このフォーラムの中で、登壇者から参加者へ「地域に住む外国人やその子どもたちの存在を知ること」、「国籍にかかわらずすべての子どもたちが受け入れられる社会であること」、そして日本人と外国人の分断が進まないよう「今は始めること」などの思いが投げかけられました。

分断された社会は偏見や差別を助長するリスクがあります。私たちが多文化共生の地域づくりを進めるためには、日本人と外国人が互いに正しく学び、理解し合うことが必要であり、そのためにできることを一つでも挑戦していくことが必要であると感じました。



市内児童・生徒

人権ポスター



いしべ みなみしょうがっこう 5年 吉田 紗雪
石部南小学校



こうせいちゅうがっこう 2年 宮坂 紫
甲西中学校



しもだ しょうがっこう 5年 川北 七緒
下田小学校



こうせいきたちゅうがっこう 2年 平澤 茉歩
甲西北中学校

人権標語

さあみんな ところところの 手をつなごう

いしべ しょうがっこう 5年 堂森 楓
石部小学校

受け入れよう 人の個性 大切に

みくもひがししょうがっこう 5年 白田 央佑
三雲東小学校

わたしとね あなたはちがう でもおなじ

いわね しょうがっこう 5年 清水 愛結
岩根小学校

みとめあおう 一人一人の よいところ

ぼだい きたしょうがっこう 5年 上田 心結
菩提寺北小学校

やさしさで 笑顔広がる 町になる

ひえ ちゅうがっこう 3年 樋口 和沙
白枝中学校